

「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和4年1月14日（金） NO28 文責 木下 文秋

資源回収所

皆さんの住んでいる地域にも「資源回収所」があると思います。どこにあるか知っていますか？資源回収所とは、空き缶、空き瓶、トレー、ペットボトル、新聞紙、雑誌、古紙などの資源を燃えるゴミ、燃えないゴミとして出すのではなく、その地域の指定された場所に各家庭が持ち込み資源としてリサイクルする場所のことです。私の住む地域でも指定された場所がありますが、お世辞にもきれいに分別されているとは言えませんでした。そこには役場か地域の区長が指定した管理人さんがいて、その人が定期的に分別や整理をしています。その管理人が今年になって変わりました。その人は男性で年齢で言うと恐らく60代から70代の方です。私は実家に行くついでに、結構頻繁に資源回収所にトレーや空き缶を持って行きますが、いつ行ってもその男性が回収所の整理をする姿がありました。そして、その男性になって回収所の様子が一気に変わりました。例えばペットボトルのフィルムをはがさないで持って来るケースや、黒い瓶も白い瓶も一緒に投げ込むケースがありましたが、今は全てクリアされています。恐らくその担当者がフィルムをはがしたり、瓶の色で分別したりしているのだと思います。分別もしっかりされているし、ゴミなどもきちんと捨てられて、汚い感じが一掃され「汚したらまずいなあ」と思えるほどにきれいになっています。「割れ窓理論」という言葉があります。空き家のガラスが割れてそのままにしておくと、いつの間にか全てのガラスや壁などが割られて、まるで幽霊屋敷のようになってしまうという現象です。学校も一緒に、校内にゴミがたくさん落ちていると、いつの間にかガムやお菓子の持ち込みが始まります。教室のロッカーや棚が乱れていると、授業態度も雑になります。整理整頓がされていなければ、秩序も乱れていくと言うことです。不思議なことに「整理整頓と私たちの秩序」はリンクしています。汚いところはみんな汚く使いますが、きれいで清潔なところは汚しません。その資源回収所がきれいで清潔になったおかげで、地域の住民もルールを守り、分別をしっかりと利用することと思います。資源回収所が美しく清潔な場所になる様子を見て、改めて環境整備の大切さを感じました。

追記：トイレのスリッパがきれいに並ぶようになりました。「高城プライド」ありがとう。